

令和4年度1回愛媛県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会

Web会議 議事録

令和4年7月14日(木) 13:30~15:00

出席者 (38名)	NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会	松本	愛媛県立中央病院	濱田、渋谷、季羽、石山、武田、井上、外山、片岡、小笠原
	愛媛県庁健康増進課	三宅 担当係長		
	愛媛大学医学部附属病院	塩見、古川	松山赤十字病院	池田、高須賀
			市立宇和島病院	黒田、沼田
	済生会今治病院	松岡、池田、斉藤	四国中央病院	高木
	住友別子病院	和田、山地、高橋	十全総合病院	白石
	松山市民病院	三谷	済生会松山病院	平岡、藤原
	HITO 病院	守屋	四国がんセンター	灘野 (部会長)
	済生会西条病院	大谷		羽藤 (副部会長)
	市立八幡浜総合病院	高橋		藤山 (副部会長)
	愛媛労災病院	田中		高橋、福島、大西
	事務局	四国がんセンター	安宅 (事務担当)	

I. 報告・協議事項

1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告

(第18回 5/26 オンライン配信)

福島 美幸 (四国がんセンター)

1) がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針および次期基本計画策定に向けての提案書について

○提案書のポイント (資料12ページ)

- ・がん相談支援センターだけでなく、より大きな組織(行政、都道府県がん診療連携協議会、拠点病院等)単位での対応も重要になることから、相談支援や情報提供に関する提案案を対象別に記載した。
- ・都道府県がん診療連携協議会の情報集約機能や役割分担・連携構築の議論を主導する機能、また患者団体と拠点病院の間をつなぐコーディネート機能等を強化することが必要である。
- ・拠点病院では、病院をあげて、患者家族支援体制を整備することや診断初期の患者に必要な情報を確実に伝える体制を整備することが必要である。また、がん相談支援センターで提供される支援の質を担保するため、整備指針上での人員配置要件や相談員の研修修了要件の見直しが必要である。

○16の提案内容とその背景となっている課題および体制や人材配置については、資料13~29ページ参照。

○島根県がんピアサポーター相談会 運営・実績報告 (資料31~38ページ)

- ・島根県では、平成23~25年の間、県より島根県立大学へ「島根県がん相談員等資質向上

事業」が委託され、平成 26 年度より島根県より島根大学医学部附属病院へ「がん患者・家族サポートセンター」事業が委託されている。

- ・ピアサポーター・県・がん相談員実務担当者会共催で意見交換会を実施。当事者の声を反映しながらよりよい運営を行っているとのこと。

○愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会のとりのくみ（資料 39～56 ページ）

- ・愛媛県から灘野専門部会長より当専門部会の取り組みについて発表。
- ・県の担当者や患者団体が参画している点等について質問があり、興味のある発表だったとの意見あり。
- ・（補足）静岡県がん診療連携協議会 相談支援専門部会より、がんサポートブックえひめを参考に初版を作成したいと連絡があり、初版を作成した 10 年前の活動に関して 20 分程度発表。愛媛版を参考にしたい理由として、インデックスタイプで見やすく、愛媛県のイメージアップキャラクターみきゃんが使われている点をあげられる。どのような項目を入れるか等、1 年かけて皆で意見を出し合っただけで作成したところも関心があった様子。

○がんと診断されて間もない人への情報誌資材の活用について（資料 59～67 ページ）

- ・がんと診断されて間もない人への情報誌資材（冊子）について作成経緯と活用方法の案内。
- ・相談支援センターの周知が図られる資材として作成が始まったこと、平成 30 年の整備指針に「主治医等から相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること」と記載があり、そのツールとして活用をとのこと（資料 59 ページ）。
- ・資料 62 ページの 3 分半ほどの動画については、先生方への周知に活用を。
- ・コンセプト、冊子利用のメリットについて（資料 63～66 ページ）。
- ・5 月より購入が可能。初回発注 1 万冊、150 施設程度から注文あり。
- ・九州がんセンター 森田医師より「モニターとして数冊初診時に渡すことを試みた。がんの病気を説明する際は大変重たい雰囲気になりがちだが、この冊子を使うことで仕事や金銭面の話も触れることができ、場が和んだり、コミュニケーションがとりやすくなることが実際に使ってみてわかった」との紹介あり。

○相談員研修・国立がん研究センターの認定事業について（資料 68～79 ページ）。

○確かな医療情報を用いた相談対応について学ぶ研修 講師派遣事業について、今年度は高知県で開催（資料 80 ページ）。

○主催者向け Zoom 説明会について、7 月 27 日（水）にオンラインにて開催（資料 93 ページ）。

2. 「若年がん患者在宅療養支援事業」「今治市・西条市ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業」、
「小児・AYA 世代のがん患者の妊孕性温存療法研究促進事業」等の県内動向について

三宅 宏和（愛媛県健康増進課）

1) 小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について

- ・今年度から開始。将来子どもを産み育てることを望む小児・AYA 世代のがん患者等が希望を持ってがん治療等に取り組めるように、将来子どもを出産する可能性を温存するための妊孕性温存療法に要する費用の一部を助成する事業。
- ・治療費の相場の半額程度を助成される。対象となる治療・上限額は①妊孕性温存療法で 2 万

5 千～40 万円、②温存後生殖補助医療で 10～30 万円。助成回数は妊孕性温存療法で通算 2 回、温存後生殖補助医療で通算 6 回。

- ・愛媛県における事業イメージは、愛媛大学医学部附属病院が事務局を担当している愛媛県がん・生殖医療ネットワークがある。愛媛大学医学部附属病院 杉山医師、安岡医師が中心。
- ・助成金を使用する際に、指定の病院での治療が必要。愛媛大学医学部附属病院 産婦人科、矢野産婦人科が指定病院となっている。
- ・治療を受ける際に、原疾患の主治医の承認・承諾書が必要となっている。
- ・助成金の申請は本人もしくは未成年の場合は保護者。
- ・愛媛県のホームページに事業の詳細を公開している。

2) 若年がん患者在宅療養支援事業について

- ・令和 2 年度から実施。
- ・制度の変更はなく、対象は 20 歳以上～40 歳未満。訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具貸与、福祉用具購入が対象。利用料の上限は月額 6 万円、自己負担額はサービス利用料の 1 割。9 割（54,000 円）は自治体と愛媛県で負担。
- ・全市町村での利用が可能となった。
- ・昨年度の実績、4 市町で制度の医療利用あり。周知が不足しているので、該当の方への案内をお願いしたい。

3) 今治市・西条市ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業について

- ・愛媛県内では西条市、今治市で実施している。
- ・全国的にもアピアランスケアの女性が増えつつある。
(済生会今治病院) 数名の患者さんへ助成についてのお話をしたが、利用されたかは不明。

3. (2021 年度実施) AYA 世代支援活動についてアンケート結果のホームページ掲載について

福島 美幸 (四国がんセンター)

- ・相談員レベルで知っておきたい情報の共有として、2021 年 12～2022 年 1 月にアンケートを実施。2 月に結果をまとめたものをメールにて連絡済み。
- ・ホームページへまとめた資料を活動実績のページに掲載したい。
- ・困った経験等、病院名が記載されたままでの掲載はよくないのでは。
- ・アンケート結果全てを出すのではなく、掲載内容を整理すべき。

4. 都道府県がん診療連携協議会四国ブロック会申し合わせ事項について

福島 美幸 (四国がんセンター)

- ・4 県で地域支援フォーラム等の研修会を開催しているのので、申し合わせ事項を作ってはどうかという提案があり作成。
- ・四国ブロック会を以前から開催しているが、申し合わせ事項や会則がないため作成。四国ブロック会にて承認され、5 月 26 日から施行。

- ・趣旨として、4 県が協働で開催・運営する会を設置。1 つの県では対応が難しい、がん相談支援に携わる者への研修の提供や相談支援センターの業務拡大への対応・がん相談支援体制の均てん化を推進する。
- ・組織として、拠点病院の相談支援部会会長、各県の行政担当者、実務担当者が委員。愛媛県の実務担当者は福島、松岡。
- ・会長は地域相談支援フォーラム及び研修会を主催する県の管理者または相談支援部会会長。今年度は愛媛の灘野部会長が会長。
- ・業務としての定例会は第 6 条 3 項の地域相談支援フォーラム、QA 研修等がメイン。
- ・任期は 1 年としているが再任を妨げない。

5. 各ワーキングからの報告

1) 相談員研修 WG

福島 美幸 (四国がんセンター)

- ・地域相談支援フォーラム in 四国愛媛開催について

【令和 4 年 10 月 22 日 (土) 13 時～17 時 10 分】

- ・7 月 19 日より申し込み開始。Web での申し込み。ちらしの URL、QR コード参照。
- ・50 名定員、四国の方を優先する。8 月中旬から全国で広報をし、9 月 9 日締め切り。
- ・相談員だけでなく看護師や医師、事務の方にも参加をいただきたいので、各施設で声がけをいただきたい。

2) 広報活動 WG

大西 明子 (四国がんセンター)

○がんサポートブック第 4 改訂版

(灘野部会長) 大幅改訂であったため、県拠点病院から無料で配布 (拠点病院 : 500 部、準拠点病院 : 100 部)。できるだけ医師から渡してもらうよう、各施設で検討いただきたい。

- ・積極的にがんサポートブックの活用を推進していくための方策について検討。
- ・誰に・どのタイミングで・どんな方法で渡すのかは各施設で検討。広報 WG のメンバーがいる施設はメンバーを中心に検討いただきたい。
- ・次回の部会までにどういった方法で活用したかを報告いただきたいので、それまでにメールでアンケートを実施し、結果を報告する。

○「すごいもの博」の開催について【11 月 26・27 日の 2 日間開催】

- ・8 月から申し込みがあるので、参加に関して検討して欲しい。
- ・後日、メーリングリストにて案内予定。

○「がんと診断されて間もない人向け情報」冊子について

- ・利用を前向きに。がんサポートブックと併せて活用。動画等もあるので、医師へ案内を。

◎拠点病院の指定要件

- ・外来初診時に主治医等から、がん患者及びその家族に、相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること。
- ・地域の医療機関に対し、相談支援センターに関する広報を行うこと

その資料として作成されているもの。

○使用方法について

- ・医師から患者さんへ渡すことが理想。相談支援部会としての活動がスムーズにいくと考えられる。

(羽藤副部長) すんなりと患者さんやご家族は受け入れてくれる。渡しやすい。病状を説明した後に、検査前に渡し「待っている間に読んでみてください」と一声かけている。評価はまだとれていないが、カルテで冊子を見て来てくれたとの記載も見られ、いいのではないかと考えている。

3) チェックリスト WG

松岡 誠子 (済生会今治病院)

○昨年度実施報告

- ・11 月末にチェックリストの評価をしていただいた。集計をし、次年度用の入力フォームを作成。Google フォームで作成できるように整えた。
- ・評価指標を作成し、チェックリストに評価指標を加えたので、結果が改善した。
- ・チェックリストの運用変更を検討し、Google フォームでの入力・集計のフォームを作成。入力・集計作業の負担が軽減できると考えられる。今年度は Google フォームで入力を行っていただく。
- ・昨年度の評価結果に引き続き、コロナ禍の影響による相談支援センターの活動の支障は顕著であった。39 の項目で評価が下がったが、その内 21 の項目がコロナ禍の影響によるものと考えられる。特に患者家族サロン運営や地域の連携強化については顕著。コロナ禍での患者支援の在り方を部会で検討する必要がある。
- ・今年度も各施設で年 1 回のチェックリスト評価を行う。今後の評価結果集計の取り扱いや専門部会全体の評価方法などについては、ワーキンググループで検討し専門部会に提案する。

○今年度の活動目標、スケジュール

- ・昨年度作成した Google フォームでの入力・集計のフォームを使用し、各病院で評価する。
- ・新しいフォームの使用について、各施設から意見を集約し、フォームを洗練化する。
- ・チェックリストの全体評価は 3 年毎に実施し、全体評価を実施しない年度は、重点的に取り組んだほうが良いと思われる項目をワーキングより提案し、専門部会で承認を受けた項目のみ評価する。
- ・今年度の重点項目は①患者を孤立化させない支援、②研修参加の促進についてのみ。各拠点・推進病院で評価した内容をまとめ、県内の現状を把握し、昨年度との比較から課題を明らかにし、次年度活動に活かす。
- ・新しい入力フォームや今後のワーキング活動方針、今年度の重点項目について本日の部会で承認いただけたら、7 月末にメールを配信。
- ・各病院でのチェックリストの実施。提出期限は令和 4 年 11 月 30 日 (水) 17:00 とする。
- ・令和 5 年 1 月までに集計し、課題の抽出と来年度の活動を検討。年度末に結果・報告書を配信する。

6. がん患者サロンについて

1) 四国がんセンターの現況報告

福島 美幸（四国がんセンター）

- ・2021年度ひまわりサロン（ピアサポーター開催）は6月から7月に集合型で開催。8月は新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置のため中止。9～12月は開催。2022年1月はオミクロン株感染拡大特別警戒期間となり中止。
- ・2022年度は解除に伴い、4か月ぶりに5月から再開
- ・イベントに参加されるみなさんへのちらしに「暖だんでの感染予防対策」と「感染症予防対策に関する留意点とお願い」を記載。
- ・申込書に連絡が取れるように申込者の電話番号の記載欄を。
- ・2021年度は6、7、9、10、11、12月の6回開催。参加者は1～4名。感染症防止対策として、マスクの着用・アルコール手指消毒・利用者カードへの記入・参加者の制限（事前申込）・ソーシャルディスタンス・窓の換気・ティーサービスなしとした。
- ・四国がんセンターの「がんサロン」は、ピアサポーターが運営する「ひまわりサロン」、医療者が運営する「憩いのサロン」、イベントボランティアが運営する「ふれあいサロン」の3つがある。参加者（スタッフ込み）は定員の半数、時間が45分に短縮されていたが、7月より60分に延長。

2) ピアサポーター派遣について

松本 陽子（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）

- 県からの委託でおれんじの会から5か所の拠点病院へピアサポーターを派遣している。
- 昨年度は中止になったが、今年度は対面・オンラインどちらもありで活動。
 - ・愛媛大学医学部附属病院にて入院中の患者さんがオンラインでサロンに参加。申し込みはGoogle フォームからの事前申込制。対象は入院・通院中の方とした。1～2か月目から準備し、完全オンラインにて開催。ピアサポーターはまちなかサロンから、患者さんは病院が個室を用意し参加。愛媛大学医学部附属病院がホスト。自身のiPadを使用しようとしたが上手くいかず、病院から貸し出した。スタッフが部屋の近くに待機し、トラブルがある場合は対応できるようにした。開催時間は45分。参加からは「とても良かった」と満足の声。
- 全施設が今月から再開となった矢先に第7波で現在は何か所かが中止に。
- ピアサポーター自身が患者で治療中のため、ハイリスクに属する方がいる。

3) ピアサポーター養成研修

松本 陽子（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）

- ・今年度集合研修で開催予定【令和4年9月】

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

○「認定がん専門相談員」認定事業

福島 美幸（四国がんセンター）

- ・昨年度の申請から、自己の相談対応のモニタリングの提出が必要。
- ・今年度の申請から、地域開催Ⅲ群の相談員研修が必須。

- 「情報支援研修」研修講師派遣について 松岡 誠子（済生会今治病院）
（高知県主催）【令和4年8月21日（日）13時～17時15分】
「情報から始まるがん相談支援」研修～地域展開版～
開催方法：オンライン（Zoom）
募集人数：30名（四国を優先、他地域からの申し込み可）

II. その他

1. 「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」
【がん診療連携拠点病院等指定要件に関するワーキング】より
松本 陽子（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）
 - ・ワーキングは終了している。
 - ・個別で意見をいただいた。
 - ・7月21日に検討会があり、要件が確定する。

2. 2022年度愛媛県災害時連絡シミュレーション実施について
 - ・年に1回実施。今年は8月に実施予定。

3. その他（各施設から周知事項）
なし

4. 災害発生時の部会活動中止・延期に関する取り決めについて（毎年周知）
 - ・取り扱いについては2022年3月にメールにて連絡済み。
 - ・ワーキングは終了となったが、毎年周知を行う。

議事録担当：四国がんセンター（次回は松山赤十字病院）